

第14回神奈川工業技術開発大賞

努力の結晶に喜び新た

第十四回神奈川工業技術開発大賞(県、神奈川新聞社主催)の表彰式が十七日、県庁本庁舎で行われ、大賞、地域環境技術賞、奨励賞を

受けた七社の代表者らが出席。緊張した面持ちで式に臨んだ出席者も表彰状やトロフィーなどを受け取ると笑顔が浮かび、新技術開発に取り組んだ努力が実を結んだ喜びをかみしめていた。

受賞者を代表して、大賞を受けた信光社の米沢義史社長は「身に余る光栄で、感激している。企業経営を取り巻く経済環境は大変厳しく、こうした時に長年努力してきた技術開発、研究開発の苦労が報われ、さらに努力していく思いを新たにしたい」とあいさつした。同社の受賞技術は、分子レベルでの平たんさを可能にした酸化物単結晶ステップ基板の開発。超高速コンピュータや超高感度赤外線センサーなどへの応用が期待される高温超電導技術の実現に欠かせない。米沢社長は「わが社はこ

第14回神奈川工業技術開発大賞表彰式



岡崎知事らから賞状などを受け取る受賞者＝県庁大会議室

とし創立五十周年を迎えたが、今回大賞を受賞できたのは、創立以来、一筋に努力してきたことの結晶だと思ふ。他社のみならずも同様の努力をしてきたことと推測する。なお一層、技術開発に励み、県内の経済発展に貢献していきたい」と、自らが歩んできた道のりを思い起こしながら、今後の抱負を話した。

また選考委員の林主税・日本真空相談役最高顧問が「新規性、獨創性、技術の難しさ、先見性、そして販売の実績など企業化の状況を含めて選考させてもらった。大賞のVACSは、フランスのルーブル美術館に納入されていて、すでに国際的な競争力を持っている」と、各社の受賞理由のポイントを簡潔に紹介

しながら、その技術レベルの高さをたたえた。

受賞各社には、県から彫刻家長江録弥さんのトロフィーや盾、神奈川新聞社からは日本画家の東山魁夷さん、加藤東一さん、中島千波さんのリトグラフが贈られた。

地域産業の発展支え

神奈川工業技術開発大賞 7社に表彰状

県内中堅・中小企業の技術開発力向上を目的とした第十四回神奈川工業技術開発大賞(県、神奈川新聞社主催)の表彰式が十七日、県庁本庁舎で行われた。

＝関連記事7面に

大賞に輝いたエム・エンジニアリング(海老名市)、信光社(横浜市)、セイミケミカル(茅ヶ崎市)、林電気(川崎市)をはじめ、地域環境技術賞のガステック(綾瀬市)、奨励賞の日本セレン(川崎市)、マルチ(横須賀市)の計七社から、社長や開発担当者らが参加。岡崎洋知事が表彰状やトロフィーなどを、森本敏男神奈川新聞社社長が記念のリトグラフを手渡し、受賞を祝った。

今回の応募件数は、前回より三十四件少ない四十二件と過去最低だったが、受賞七社の技術分野は精密機械、化学、電子機器関連など幅広く、県内企業の多様な集積と技術・開発能力の高さを示した。

式では、岡崎知事が「受賞技術は、素晴らしい創意工夫と密な研究に裏打ちされたものばかり。わが国の経済の活力を維持するためには、新産業の創出はもとより、研究開発や新技術の導入による既存産業の高度化が不可欠。神奈川から、

産業の未来を開く新しい技術が生まれるものと確信している。これからも神奈川の地域産業の発展に「尽力を」とあいさつした。受賞七社の製品は、米年二月五日から七日までパシフィコ横浜の展示ホールで開かれる「テクニカルショウヨコハマ」で展示される。